

愛知県立吉良高等学校 災害安全(防災)への取組

平成30年2月9日(金)

1. 準備

(1)生徒防災委員会の立ち上げ

- ・普通科生徒11名、生活文化科生徒10名の計21名が参加

(2) 実践委員会アドバイザーの委嘱 3

- 名古屋大学減災連携研究センター 福和伸夫教授
- 名古屋大学大学院教育発達科学研究科

窪田由紀教授

- 西尾市立白浜小学校 加藤成幸教頭先生
- 西尾市立白浜保育園 杉浦明美園長先生
- 西尾市危機管理局危機管理課 高須清和課長補佐
- 西尾市危機管理局危機管理課 磯貝衣里奈主任
- 愛知県教育委員会保健体育スポーツ課健康学習室

鈴木照主査

2. 吉良高校の取組

・事業Ⅰ

避難訓練計画の作成

(担当: 普通科防災委員)

・事業Ⅱ

「心の減災」についての理解と実践

(担当: 生活文化科防災委員)

2. 吉良高校の取組

活動内容

- (1) 第1回実践委員会
- (2) 名古屋大学減災連携研究センター訪問
- (3) 第2回実践委員会
- (4) 生徒による防災クイズ
- (5) 防災展示発表(文化祭)
- (6) 3校合同避難訓練に向けての白浜保育園事前訪問
- (7) 3校合同避難訓練
- (8) 第3回実践委員会

(1) 第1回実践委員会

平成29年6月20日(火)

内容

- 本事業の取組について
- 年間計画について
- 実践委員による御指導

第1回実践委員会(写真左)



窪田委員による心の減災についての講話(写真右)



10秒呼吸法とは

8

- ① 姿勢を整える
- ② 静かに目を閉じる
- ③ 口から息を全部吐き出す
- ④ 1、2、3、と鼻から息を吸いながらお腹を膨らませる
- ⑤ 4で、いったん息を止める
- ⑥ 5、6、7、8、9、10で、口から息を吐き出しながら、
お腹をへこませる
- ⑦ ④～⑥を繰り返す

委員からの助言・指導

9

- 防災委員会に参加している生徒だけでなく、全校生徒の防災に関する意識が向上させることが大切
- 1年限りではなく、次の代へもつなげてほしい
- あらゆる場面での被災を想定する必要がある

(2) 名古屋大学減災連携 研究センター訪問

平成29年8月4日(金)

参加者：生徒防災委員6名 教員2名



筋交いの無い建物が地震
に弱いことを体験する
(写真左)

1 1

液状化についての
講義を聴く(写真右)



(3) 第2回実践委員会

1 2

事業Ⅰ（避難計画）：平成29年8月28日（月）

事業Ⅱ（心の減災）：平成29年8月24日（木）

内容（事業Ⅰ）

- ・減災センター訪問報告
- ・避難訓練計画について
- ・実践委員による御指導

内容（事業Ⅱ）

- ・高校生による心の減災活動について
- ・3校合同避難訓練について
- ・実践委員による御指導

普通科の生徒が西尾市危機管理課に避難に関して質問する
(写真左)



生活文化科の生徒が委員
会でこれまでの活動を報告
(写真右)



委員からの助言・指導

14

- 避難の際に持ち出す物を決めるとよい
- 実践的な訓練にし、訓練を通して良い方法を検証していく必要がある
- 10秒呼吸法は園児や児童に対していかにわかりやすく伝えるかが大事で10秒という数字にこだわる必要はない
- 合同避難訓練でいきなり園児と接するのではなく、普段から園児と接しておくことが大切

(4) 生徒による防災クイズ 15

平成29年8月29日(火)
全校生徒を対象に実施(LT時)



放送による防災
クイズに取り組
む様子

(5)防災展示(文化祭)

16

平成29年9月6日(水)

家具固定に関する
ポスター展示(写真上)

非常持ち出し袋に入れて
おくといよい物の展示
(西尾市危機管理課より)
(写真下)



(6) 白浜保育園訪問

平成29年10月25日(水)

17



保育士から子どもの抱きか
かえ方を教えていただく



(7) 3校合同避難訓練

18

平成29年11月2日(木)

参加生徒	2年生生活文化科78名
	3年生生活文化科3名(防災委員)

3校と避難場所の位置関係

19





9時00分 学校スタート

20

吉良高校から白浜小学校
までの道路(写真左)

9時04分
白浜小学校西側通過



9時07分
保育園到着

9時18分
正法寺古墳
登り口到着



園児が正法寺古墳の階段
を上がる(写真左)



園児と一緒に避難する
(写真右)



9時22分
正法寺古墳到着

9時26分
点呼完了





10秒呼吸法を小学生
に教える(写真左)



10秒呼吸法を園児
に教える(写真右)

(8) 第3回実践委員会

平成29年11月22日(水)

内容

- ・生徒防災委員による避難計画の提案
- ・3校合同避難訓練の振り返りと改善について
- ・実践委員による御指導



生徒防災委員が避難計画
を提案する(写真左)



福和委員から吉良町の過去の
災害について学ぶ(写真右)

委員からの助言・指導

27

- グラウンドや避難経路で必ず起きる液状化を想定して訓練をするべき
- 保育園と小学校と連携し、正法寺古墳までの避難経路の安全性を伝え合うことが実際に被災したときには必要
- 学校周辺には橋が多いため、正法寺古墳に避難できないことも想定しておくべき
- 防災訓練だけではなく、地域に起きた過去の災害から歴史、地理、理科教育をしていくとよい

3. 今後の課題

28

- 津波避難訓練計画の実施とその改善
- 各教室へ持ち出し袋の設置
- 非常食・飲料水を保管するコンテナの設置
- 校内の設置器具の固定と避難経路の安全性の確保
- 防災委員会の常設と活動の充実
- 全校生徒への啓発活動

生徒の意識の変化

- ・地震・津波・液状化に関する知識が31%→94%に向上
- ・防災についての会話(家族)13%→63%に向上
- ・水・非常食、懐中電灯、地図、予備電池などの準備
- ・高校生として災害時にできることの増加